

効率化の行く先を見にゆく

構内に響き渡る人口音声、とまどう旅客、この会社に優しさはあるのか!?

地本業務部と営業分科会合同で現地視察を行う



12月14日、東海道本線岡崎～豊橋間の駅営業体制の見直しについて提案を受けました。「無人化した駅を統一管理する」というもので具体的には2012年から武豊線に導入されたシステムと同じものです。

私たち東海労名古屋地本は営業分科会とともに現地を見るべく武豊線に向かいました。駅には改札のゲートがあるだけでフラッパーはありません。何かあれば遠隔案内センターに問い合わせるインターフォンがあるのみでした。

自動券売機前にも同様の設備があり精算も旅客自身で精算するというものです。ちょうど、そこに精算が必要な旅客がみえました、まず自動改札で「ピポーン」の音に驚き、ようやく見つけたインターフォンでセンターに問い合わせ、券売機で精算するのに四苦八苦していました。このようなことが起きていることなど管理するセンターでわかるはずありません。

声なき声をいいことに会社は効率化を進めてきています。ましてや、ハンディを持った人や年寄りにとって大変な負担です。

車いす対応は急きよの場合は待ってもらう

車いす対応や目の不自由な旅客の対応に社員は、旅客の安全のため全力を挙げて取り組んでいます。体の不自由さをフォローするのが私たちの務めではないでしょうか。会社は平気で「2日前に申し込みがあれば対応する、急きよであれば待ってもらう」と言っています。サービス業の本質を放棄するものです。

**私たちはシステム化に
名を借いた駅の無人化
に反対します！**

